

高知県感染症発生動向調査（週報）

2021年 第41週 （10月11日～10月17日）

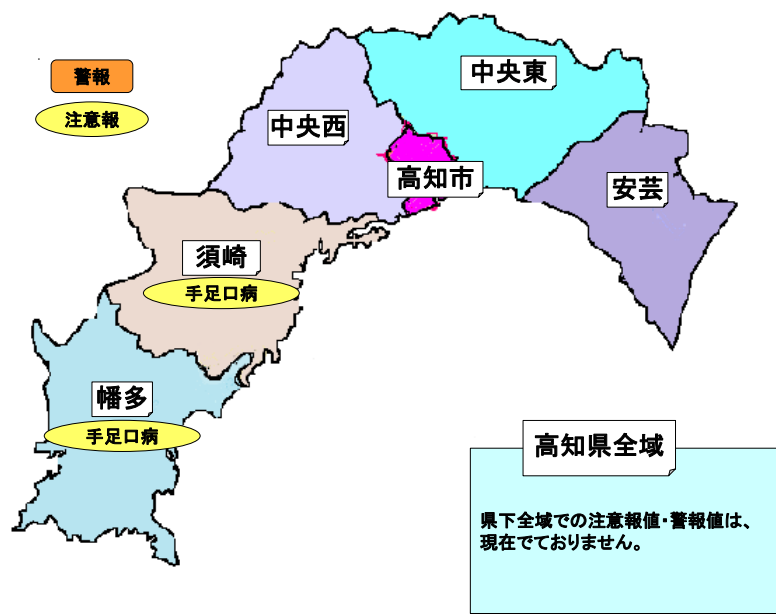
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病	↘	0.75	須崎、高知市、安芸で急減、県全域、中央東で減少していますが、中央西で急増し、須崎、幡多では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↘	0.64	安芸、中央東で急減、県全域、高知市、幡多で減少しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	0.50	高知市、中央東、須崎で急減、県全域で減少していますが、中央西で急増しています。
ヘルパンギーナ	↘	0.25	高知市、中央東、中央西で急減、県全域で減少していますが、幡多で急増しています。
突発性発疹	↗	0.21	幡多で急減していますが、中央東で急増、県全域、高知市で増加しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

手洗い：感染症予防の基本は手洗いです

- ・爪は短く切っていますか？
- ・指輪・時計ははずしていますか？

- ① 石けんを泡立て、てのひらをよくこすります
- ② 手の甲、指の間や指先、ツメの間まで丹念にこすります
- ③ 親指をねじり洗いし、手首も忘れずにあらいます
- ④ 石けんを洗い流し、清潔なタオルで拭き取って乾かします

汚れの残りやすいところも丁寧に：指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手のしわ
タオルの共有は避けましょう

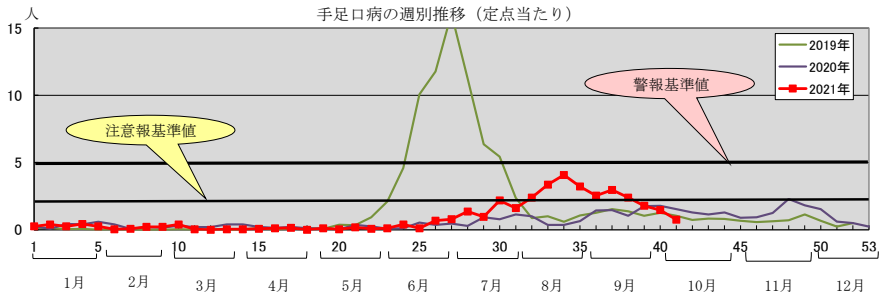


★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○手足口病に気を付けて！

手足口病は4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患です。10月になり報告数は減少してきていますが、一部の地域では注意報値を超えていますので注意しましょう。2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。

通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。ほとんどの発病者は数日間のうちに治る病気ですが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。



<予防方法>

- ・手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・タオル・コップ等は別のものを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。
- ・回復後にも2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、特に、外出後、食事の前、トイレの後に手洗いをしましょう。

【学校感染症】

手足口病は、学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、条件によっては第3種の感染症の「その他の感染症」となります。出席停止期間の基準は「発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身症状が改善すれば登校可能」ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りでないと規定されています。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
5 類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	60 歳代 男性	高知市
	梅 毒	1	75	20 歳代 男性	

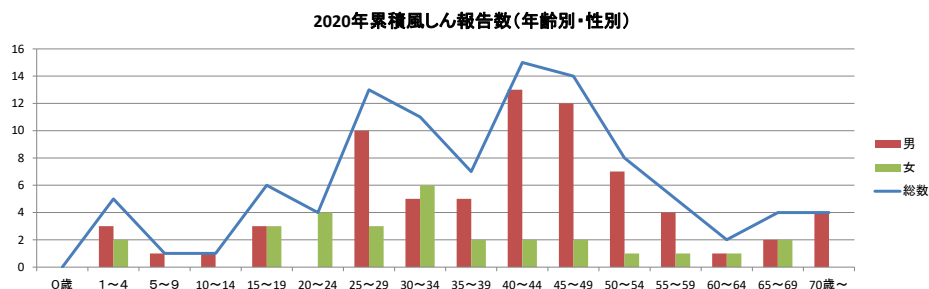
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	JA 高知病院小児科	サルモネラ腸炎 1 例 (15 歳男)
高知市	高知医療センター小児科	サルモネラ菌 1 例 (4 歳男)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 3 例 (0 歳、2 歳 2 人) カンピロバクター+病原性大腸菌 (血清型不明) 腸炎 1 例 (8 歳)
中央西	くぼたこどもクリニック	手足口病 1 例 (1 歳男：県外から帰省)
須 崎	もりはた小児科	帯状疱疹 1 例 (ワクチン 2 回済)
幡 多	さたけ小児科	急性糸球体腎炎 1 例 (11 歳男：溶連菌陽性)

★県外で注目すべき感染症

○風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2021 年 40 週までの累積報告数は 10 人 (男性 7 人、女性 3 人)、2020 年累積報告数は 100 人 (男性 71 人、女性 29 人) となっており、そのうち 87% (87 人) が成人で、25 歳から 50 歳代の男性が中心となっています。



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。

風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では 2 つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

- 対象者**
- ・高知県内在住 (住所を有する者) の妊娠を希望する女性
 - ・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など (生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む)
 - ・風しんの追加的対策として、1972 年 (昭和 47) 年 4 月 2 日から 1979 年 (昭和 54) 年 4 月 1 日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布
 - ・1962 (昭和 37) 年 4 月 2 日から 1972 (昭和 47) 年 4 月 1 日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください (住所を証明する書類 (運転免許証や健康保険被保険者証等) を持参ください)。

検査結果：検査後 1~2 週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします。

●厚生労働省「風しんの追加対策について」(風しん抗体検査・風しん第 5 期定期接種受託医療機関)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

- 無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/2020051200219.html>
- 風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>
- 風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

○高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVIT-19.html>

高知県保健所別新型コロナウイルス感染症報告者数

		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	県外	総計
9月	20 月		1	4	4				9
	21 火			3	3				6
	22 水			8	4	2			14
	23 木		1	3		2			6
	24 金			3	2	5			10
	25 土			1		5			6
	26 日								0
	27 月		1	2					3
	28 火	1	1	2					4
	29 水			5	2				7
30 木			3					3	
10月	1 金			2					2
	2 土	1		1	2				4
	3 日				1				1
	4 月		1	1					2
	5 火			1			1		2
	6 水					1			1
	7 木			1			2		3
	8 金				1				1
	9 土								0
	10 日								0
	11 月		1						1
	12 火					5			5
	13 水								0
	14 木			2		1			3
	15 金			2					2
	16 土		1	2					3
	17 日			3	1				4
総計		109	520	2945	256	129	174	2	4135

数字は各地域でその日陽性が確認された数
総計はR2年2月28日以降の報告者数

★ 直近の新型コロナウイルス感染症の状況

(国立感染症研究所IDWR2021年第39号より)

2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認され、2020年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言され、3月11日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあると表明された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2021年10月8日15時現在、感染者数（死亡者数）は、世界で236,747,683例（4,834,252例）、196カ国・地域（集計方法変更：海外領土を本国分に計上）に広がった。

国内では、厚生労働省により公表されている、各自治体がプレスリリースしている個別の症例数（再陽性例を含む）を積み上げた情報によると、2021年10月8日0時現在、新型コロナウイルス感染症の検査陽性者

数は1,708,742例、死亡者数は17,856例と報告されている。2021年第25週（6月21～27日）から第33週（8月16～22日）は新規陽性者数と検査陽性率がともに毎週増加したが、第34週（8月23～29日）では、第33週と比べて、検査数が増加したにもかかわらず、新規陽性者数が減少し、検査陽性率減少した。その後、第35週（8月30日～9月5日）から第39週（9月27日～10月3日）は、毎週、検査数、新規陽性者数、検査陽性率いずれも減少した。第38週（9月20～26日）と第39週は以下のとおりであった：検査数（第38週：471,516、第39週：466,526）、新規陽性者数（第38週：17,331、第39週：10,021）、検査陽性率（第38週：3.7%、第39週：2.1%）（2021年10月5日現在）。

COVID-19による全国の入院治療等を要する者の数の推移については、2021年7月8日0時現在の16,127例から8月30日0時現在の231,596例まで、8月24日0時現在を除いて毎日増加したが、その後は、10月10日0時現在の10,871例まで、継続して減少した（2021年10月10日現在）。また、全国の入院治療等を要する者のうち重症者数においては、7月22日0時現在の392例から8月31日0時現在の2,110例まで毎日増加したが、その後は、前日より微減する日も見られ、9月9日0時現在の2,173例から10月10日0時現在の483例まで、継続して減少した（2021年10月10日現在）。また、日本COVID-19対策ECMOnetが集計するECMO/人工呼吸器装着数の推移においては、7月中旬から下旬にかけて微増傾向に転じ、その後も9月上旬まで増加傾向であったが、その後は減少している（2021年10月10日現在）。

感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の新規変異株の感染者が世界各地から継続して報告されており、国内においても新規変異株感染者が報告されており、現在はB.1.617.2系統の変異株（デルタ株）が多く地域で大部分を占めている。国内において、これまでに確認されている懸念される変異株、注目すべき変異株の件数については、本号10ページ「国立感染症研究所および地方衛生研究所等における全ゲノム解析により確認されたVOCs, VOIs」を参照いただきたい。変異株が検出された症例を含む事例への公衆衛生上の対応は、従来のSARS-CoV-2感染症例への対応と原則、同様であるが、広域事例を含め、積極的疫学調査によりクラスターを検出し丹念に対応していくこと、面的な対応を強力に行うことが重要である。また、変異株に関する詳細な解析結果や懸念される新規変異株のまとめについては、以下を参照いただきたい：感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の新規変異株について（第13報）。

また、感染症発生動向調査（NESID）病原体サーベイランスには、医療機関、保健所等で採取された検体から、各都道府県市の地方衛生研究所、保健所、ならびに検疫所で検出された病原体の情報が、陰性の結果を含め、任意ではあるが報告されている。2021年10月11日現在、地方衛生研究所および保健所から報告された、新型コロナウイルス感染症/新型コロナウイルス感染症疑い症例から検出された病原体は、SARS-CoV-2が28,812件、陰性が155,058件であった。これ以外にも検疫所で検出されたSARS-CoV-2が561件報告されている。なお、詳細な内訳については、病原微生物検出情報（IASR）を参照いただきたい。

2020年5月29日以降、新型コロナウイルス感染症発生届に関する国への報告事務は、厚生労働省が運営する新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）を用いて行われることとなり、移行可能な自治体から順次、移行を実施し、現時点で全国の自治体で利用されている。なお、新型コロナウイルス感染症の直近の感染状況等のまとめについては、「新型コロナウイルス感染症の直近の感染状況等（2021年10月6日現在）」も参照いただきたい。

2021年第25週以降、継続して増加傾向であった新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数と検査陽性率は、第34週以降、ともに減少に転じ、第35週以降、検査数、新規陽性者数、検査陽性率のいずれも減少している。また、入院患者数は、7月上旬（第27週）から8月下旬（第34週）まで増加傾向であったが、その後は継続して減少した。重症者数はそれより遅れて7月中旬（第29週）から継続して増加傾向にあったが、9月に入ってから（第35週）は前日より減少する日もみられ、9月9日0時現在以降は、継続して減少した（2021年10月10日現在）。引き続き、流行の変化を早期に探知するためにも、複数の情報源と指標を用いて監視する必要がある。また、各個人においては、密集場所・密接場面・密閉空間を避け、適切なマスクの使用（乳幼児以外）、手指衛生の徹底、適切な換気等、基本的な感染予防策の実施に努めていただきたい。

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2021年10月18日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(57定点医療機関)

第41週 令和3年10月11日(月)～令和3年10月17日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名	高知県(41週末累計)						計	前週	全国(40週)	高知県(41週末累計)		全国(40週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				R3/1/4～R3/10/17	R3/1/4～R3/10/17	R3/1/4～R3/10/17	R3/1/4～R3/10/17
インフルエンザ	インフルエンザ							()	()	10 ()	4 (0.08)	765 (0.16)		
小児科	咽頭結核熱			1			2	3 (0.11)	1 (0.04)	262 (0.08)	217 (7.23)	27,125 (8.61)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	4	1		8	14 (0.50)	4 (0.14)	1,396 (0.44)	378 (12.60)	72,557 (23.02)		
	感染性胃腸炎	1		13	1	1	2	18 (0.64)	32 (1.14)	6,790 (2.15)	3,916 (130.53)	345,367 (109.57)		
	水痘						1	1 (0.04)	3 (0.11)	247 (0.08)	131 (4.37)	13,140 (4.17)		
	手足口病		2	2	3	4	10	21 (0.75)	41 (1.46)	4,826 (1.53)	1,020 (34.00)	27,935 (8.86)		
	伝染性紅斑		1				1	2 (0.07)	1 (0.04)	27 (0.01)	35 (1.17)	1,769 (0.56)		
	突発性発疹		2	3	1			6 (0.21)	10 (0.36)	1,087 (0.34)	380 (12.67)	47,557 (15.09)		
	ヘルパンギーナ			2				5	7 (0.25)	20 (0.71)	1,926 (0.61)	1,041 (34.70)	21,215 (6.73)	
	流行性耳下腺炎							()	()	142 (0.05)	28 (0.93)	6,075 (1.93)		
	RSウイルス感染症							()	1 (0.04)	1,511 (0.48)	3,208 (106.93)	214,789 (68.14)		
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	4 (0.01)	()	110 (0.16)		
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	()	150 (0.22)	18 (6.00)	5,272 (7.60)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	12 (0.03)	5 (0.63)	287 (0.60)		
	無菌性髄膜炎							()	()	8 (0.02)	2 (0.25)	348 (0.73)		
	マイコプラズマ肺炎							()	()	7 (0.01)	9 (1.13)	586 (1.23)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	()	1 ()	()	17 (0.04)		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							()	()	()	4 (0.50)	62 (0.13)		
計	1	6	26	6	5	29	73			18,406	10,396	784,976		
小児科定点当たり人数	(0.50)	(0.86)	(2.76)	(1.99)	(2.50)	(5.80)	(2.57)			(345.21)				
前週	5	11	57	3	13	24		113						
小児科定点当たり人数	(2.50)	(1.57)	(6.33)	(0.99)	(6.50)	(4.80)		(4.04)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(57定点医療機関) 定点当たり人数

第41週

定点名	疾病名	高知県(41週末累計)						計	前週	全国(40週)	高知県(41週末累計)		全国(40週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				R3/1/4～R3/10/17	R3/1/4～R3/10/17	R3/1/4～R3/10/17	R3/1/4～R3/10/17
インフルエンザ	インフルエンザ										0.08	0.16		
小児科	咽頭結核熱			0.11			0.40	0.11	0.04	0.08	7.23	8.61		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	0.44	0.33		1.60	0.50	0.14	0.44	12.60	23.02		
	感染性胃腸炎	0.50		1.44	0.33	0.50	0.40	0.64	1.14	2.15	130.53	109.57		
	水痘						0.20	0.04	0.11	0.08	4.37	4.17		
	手足口病		0.29	0.22	1.00	2.00	2.00	0.75	1.46	1.53	34.00	8.86		
	伝染性紅斑		0.14				0.20	0.07	0.04	0.01	1.17	0.56		
	突発性発疹		0.29	0.33	0.33			0.21	0.36	0.34	12.67	15.09		
	ヘルパンギーナ			0.22			1.00	0.25	0.71	0.61	34.70	6.73		
	流行性耳下腺炎									0.05	0.93	1.93		
	RSウイルス感染症								0.04	0.48	106.93	68.14		
眼科	急性出血性結膜炎									0.01	0.16			
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		0.22	6.00	7.60		
基幹	細菌性髄膜炎									0.03	0.63	0.60		
	無菌性髄膜炎									0.02	0.25	0.73		
	マイコプラズマ肺炎									0.01	1.13	1.23		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)											0.04		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)										0.50	0.13		
計	0.50	0.86	2.76	1.99	2.50	5.80	2.57			345.21				
前週	2.50	1.57	6.33	0.99	6.50	4.80		4.04						

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2021年 第41週)

